

第30回 日本医学会総会2019中部 ランチョンセミナー3

日本発の最新CT技術とその臨床応用

- 日時 2019年4月27日(土) 12:40~13:30
- 会場 第3会場 (名古屋国際会議場 1号館 4階 レセプション(西))

座長

湯澤 由紀夫 先生

藤田医科大学病院

演者

栗井 和夫 先生

広島大学大学院 医歯薬保健学研究科
放射線診断学研究室



本ランチョンセミナーは整理券制(無料)です。(整理券はなくなり次第配布終了)

- 配布場所: 名古屋国際会議場 1階 中庭 騎馬像付近
- 配布日時: 4月27日(土) 7:30~11:30

※整理券は、おひとり1枚限り、当日分のみ配付となります。

※整理券は、各セミナー開始後に無効となります。

2018年1月4日、東芝メディカルシステムズ株式会社は「キヤノンメディカルシステムズ株式会社」に社名変更いたしました。



日本発の最新CT技術とその臨床応用

演者：栗井 和夫 先生

広島大学大学院 医歯薬保健学研究科
放射線診断学研究室

広島大学放射線診断学研究室は、2011年からキヤノンメディカルシステムズ(以下、キヤノン)と、新しいCT技術の開発およびその臨床応用を行っている。その成果としては、逐次似画像再構成法(IR)や人工知能(Deep learning)を応用した画像再構成法(DLR)の開発等がある。IRやDLRでは、従来から用いられている画像再構成よりノイズやアーチファクトの少ない画像が得られ、画像コントラストも改善することが可能である。当研究室では、2015年より、広島県三次市の三次中央病院とIRを使用した低線量肺がんCT検診を実施しており、IRを用いることにより従来の半分程度のX線被ばく量でも、従来と同精度のCT検診を実現できることを確認している。最近開発したDLRでは、従来よりも低い線量で極めて高画質の画像が得られており、心臓や腹部領域を中心に今後の臨床応用が期待されている。頭部領域では、急性期脳梗塞の検出率の向上を目指したIRを開発し、現在は、国内4施設、海外1施設でその臨床的有用性を検証する多施設研究を実施中である。本講演では、当研究室とキヤノンの共同研究を紹介し、産学連携により国民の医療福祉にどのような貢献ができるかについて述べたい。